リ、形黄芩花ニ似テ内黄色ナリ、又一種葉ニ紫斑ナキモノアリ、根ノ形色舶來ニ同ジ、舶來ニ二品アリ、上品ヲ御物官府ニ入ヲ云ト云、芋卵ノ形ニシテ外黄白色、内ハ淺青黑色ナリ、下品ヲ商賣ト云、形小ク内外トモニ色黑ク朽蝕多シ、藥用ニ堪ヘズ、又先年丹後但馬ヨリ和ノ莪朮ト稱シテ、市ニ出セシ者ハ、根ノ形細ク内外白色ニシテ味苦シ、是ヱンレイサウノ根ニシテ、王孫ノ一種ナリ、莪朮ノ類ニ非ズ、

〔廣益地錦抄五〕我朮　葉形うこんに紛る、程よく似たり、一所に二種をならべ植見るに、いかやうにも見わけがたし、花さく事もまれなり、根のかたち各別なるにてしれり、我朮は根丸ク、うこんは根せうがのごとく、寒をおそる、冬は土中にうづみ、春出し植る、

〔草木育種藥下品〕莪茂本草　漢種のもの二種あり、形狀鬱金に似て、葉の中に紫色あり、此根淡赤し、按ずるにこれ眞の莪朮なり、一種は官園に多植、葉に紫色なく、根黄色なり、然ども鬱金とは氣味少く異なり、此眞の薑黄なり、莪朮に非ず、植る地は赤土野土ともによし、大抵芋を植る如くにしてよし、夏も多く人糞を澆べし、十月頃皆掘あげ乾て藥に入べし、又よく玄まりたる根を、來年の種に貯べし、尤子を缺ぬ樣にして但莖を切、根はそのまゝにて、南に向て山の崖の日あたりよき地を三四尺掘て、根を埋置ば寒中傷ことなし、四月に入て掘いだし、親根を捨、子を植べし、

〔書言字考節用集六生植〕檀特草　檀特花　是亦紅蕉ノ類ナリ、葉ハ恰芭蕉ニ似テ小ナリ、葉長キ事一尺餘、五月抽莖高キ事四五尺或六七尺許、鮮紅花ヲ開ク事、五月ヨリ九月ニイタル、莖頭ニ數花連リ開ク、花長ク不全開、花落テ結實コト他物ヨリ早シ、實ノ形蒼耳子ノ如ク大如大拇指少長シ、殼ノ内ニ實アリ、如蓮肉堅シ、秋實熟シタル時早クマクベシ、生ジヤスシ、又春實ヲマクベシ、寒ヲ畏ル、事如紅蕉、寒ヲフセギテ十月ヨリ根ヲ向南、屋下ニウヘ養フ事モ紅蕉ノ如クスベシ、生シテハ甚繁茂シヤ

檀特草